

横山ゆずり作 「GOING HIS WAY」

(効果音) (練習風景のギャ)

(効果音) (「ピー！」とホイッスル)

キャプテン 集合！

(効果音) (全員、パタパタ集まってくる。)

キャプテン それじゃ、今日の練習はこれで終わります。お疲れさんでした。

一同 (口々に)「お疲れ様でした！」「ありがとうございました！」

松崎律子 ほら、美佐江、今日、ネット片付ける当番でしょ。早く行かなくちゃ。

山口美佐江 うん。えーと、体育倉庫のカギはどこだったっけ～。

律子 そのベンチの上よ。もう、しっかりして。

キャプテン (オフ)ネットの当番、だれー？ グズグズしないで！

美佐江 あ、は、はい！ すみません。今やります！

律子 あーあ、全くトロいんだから、美佐江は。

ナレーション 松崎律子と山口美佐江は、青春高校2年生。同じバレー部に籍を置く仲良し…と言うか、なんと言うか…。

女子① 律子、あなたの相棒、またキャプテンにしかられてるわよ。

女子② なんかさ、あんたたちって、親友って言うより、律子が美佐江の保護者みたいねえ。

女子① そうなんだよね。ルックスだってさ、律子は目立つのに、美佐江は、ねえ？(2人でクスクス笑い)

律子 何よ。別にいいじゃない。

女子② あーら、男子なんかみんな言ってるわよ。「ドンくさい美佐江は、律子のいい引き立て役だ」ってさ。

律子 (怒って)ちょっと、いい加減にきなさいよね。美佐江のこと、それ以上悪く言ったら…。

美佐江 (オフから)律子～～。ごめんね、待たせて。

女子①② 「じゃね、お先に。」「バイバイ。」(クスクス笑いながら)

美佐江 あ、バイバーイ。(律子に)あ、何、どしたの、律子？ ヘンな顔して。

律子 ったく、あんたは、おめでたいんだから。まあいいわ。行こ。

(効果音) (以下の会話、歩きながら。足音)

律子 ねえ、美佐江。リーダーの課題、終わった？

美佐江 ううん。昨日、やっと18ページが終わったとこ。

律子 えー！ あと12ページもあるじゃない。来週の月曜日に提出だよ。

美佐江 うん、そうなんだよね。

律子 「うん」て、あんたは全く。いいわ、それじゃ、あたしが手伝っただけから。日曜日の10時に、あたしんちへおいでよ。

美佐江 え、日曜日？ 日曜日はちょっとダメなんだあ。

律子 え？ あ、そうか、あんた、教会へ行ってるんだっけ。でもこの際、しょうがないじゃない。一日ぐらい休みなよ。

美佐江 うん。でも～～、やっぱり日曜は…。

律子 ンもう、美佐江は！ はっきり言うけど、あんた見てるとイライラしちゃう。クリスチャンだなんて言ったって、教会行っていくら拜んでも、宿題は終わらないんだからね。

美佐江 ごめん。でも…。

律子 「でも」じゃないわよ。美佐江ったら、日曜のバレー部の練習だって出ないしさ、そんなことだから後輩にまでナメられんのよ！

律子(モノローグ) 美佐江ってば、ほんとに世話が焼けるんだから。わたしがついてなきや心配でしょうがないわ。わたしは美佐江とは違う。自分のことは自分でちゃんと面倒見るわ。宗教なんか頼らなくて。そうよ、美佐江みたいに、一人じゃ何もできない、優柔不断な子が行くところよ、教会なんて。

ナレーション そんなある日のこと、いつものようにバレー部の練習の前に――。

(効果音) (部員のガヤ)

キャプテン ちょっと静かに。(手をたたく)みんな、聞いて！ 今度の夏の大会の地区予選のレギュラーを発表します。3年、清水和美、伊藤幸子、山下緑、2年、松崎律子、小阪順子、(FO)三上良子、松倉夏子…。

美佐江 (小声で)律子、よかったね。頑張ってる。

律子 (小声で)サンキュー。あんたもしっかりやらないと、また“万年補欠”なんて言われちゃうわよ。

美佐江 (小声で)え、あたしなんか、ムリだもん。

キャプテン (FI)…吉田民子、石川利美、菅原明子。以上。それじゃ、練習始めて。

(効果音) (バレーホールの練習風景。掛け声)

律子 あ！(倒れる)

部員たち (口々に)「律子、どうしたの？」「松崎先輩、大丈夫ですか？」など。

律子 (痛そうに)平気よ。ちょっとひねっただけ。

キャプテン 大丈夫？ ちょっと見せて。あーあ、こりゃネンザしてるね。動かさないほうがいいわ。これじゃ、試合はムリだね。残念だけど、今回は。

律子 大丈夫です。ほんとに、ほら、歩けるもん。あ、イタタ！

キャプテン またチャンスはあるわよ。それじゃ、松崎さんに代わって、山口さん、メンバーに入れてね。

律子 キャプテン！

美佐江 え、あたし、そんな…。あたしは日曜の部活だって出てないし。

女子①② 山口先輩じゃ、ちょっとねえ。

キャプテン あなた、いつも一人で朝練やってたでしょ。知ってたわ。大丈夫よ。やってくれるね？

美佐江 はい。

律子(モノローグ) 美佐江が…?! あたしの代わりに、美佐江がレギュラーに?! あたしにも言わな
いで、何もできなりふりして、陰でこっそり練習して、こういうときが来るのを待
ってたのね。そんなのヒドい。どうしてあの子なの?!(多重エコー)

ナレーション 自分がついてあげなくては何もできない、と思っていた美佐江が、よりによっ
て自分の代わりにレギュラーになってしまった。律子にとって、それは言いよう
のない屈辱でした。

(音楽) (BGM)

律子(モノローグ) 悔しい！ どうしてなの？ あたしは、自分の力で精一杯やってきたのに。こん
なことになるなんて。大切な試合なのに。努力したのに！

(効果音) (母親、律子の部屋をノックする。)

母 律子、お友達がお見舞いに来てくださったわよ。

律子 だれ？

母 美佐江さん。

律子 今、会いたくないの。

母 「会いたくない」って、あなた…。

律子 いいから帰ってもらって！

母 すみませんね。せっかく来てくださったのに。ちょうど休んでしまって。

美佐江 いいんです。あの、それじゃ、これ渡してください。失礼します。

ナレーション そう言って美佐江が差し出したのは、小さな本の包みでした。

律子(モノローグ) 美佐江が？ これをわたしに？ (包みを開ける音)本、…何？ 聖書？ これ
聖書じゃない。(怒って)美佐江ったら、どういうつもりなの！ バカにしてるわ。
ケガしたわたしの代わりに選手になれたからって、わたしにお説教しようって
言うの？ 冗談じゃない。こんなもの、当てつけがましいったら…。あ、手紙？
「律子、今回は大変でしたね。」何よ、大きなお世話だわ。「わたしはいつも、律
子に助けてもらうばかりで、本当にごめんね。(律子の声に)すごく感謝していま
す。わたしは、自分でも本当に弱い人間だと思います。だから、律子みたいに、
いつも自分のことは自分で決めて、どんどん自分の力で道を切り開いていく、
みたいな生き方が、とてもうらやましかった。「Going My Way」って言葉が、律子
にはピッタリみたい。(間)でも、そんな生き方って、大変だろうな。疲れることあ
るんじゃないかな。…なんて思ったりもしてたの。わたしはとても律子のような
強い生き方はできないんだけど、でも、どうしようもない自分の弱さと、心の汚

さを知って、もう自分で自分をコントロールできなくなっちゃって、“だれかに丸ごと任せることができたら、どんなにラクだろう”なんて考えたことない？ わたしの場合、そうだった。中3の受験でものすごく落ち込んでいた時、先輩の勧めで初めて教会に行って、イエス・キリストのことを聞いた。そして、聖書を読んでいくうちに分かったんです——。

(音楽)

(BGM)

律子(モノローグ) ——“こんな惨めっばいわたしのために、イエス様は命を捨ててくださった”って。目の前が真っ暗になって、自分はどうなるのか、どこへ行くのか、全く分からなくなっていたわたしに、イエス様は、「わたしが道だ。わたしを信じて、美佐江、お前のありのまま、わたしのところに来なさい」って言ってくださった。その時以来、いつもこの聖書を読んで、神様に頼って歩んでいると、わたし、本当に力づけられるんです。こんな偉そうなこと言ったら、律子怒るかもしれないけど、でも、もしも律子が、努力しても報われなくて疲れたときとか、自分自身の力じゃどうしようもなくて、落ち込んだりしたとき、思い出してほしいんです。何かわたしたち人間、弱い人間の限界を超えた、大きな力(わたしはそれが聖書に書いてあるイエス様、神様だって思うんだけど)、その大きな力に頼って生きる生き方もあるんだってこと。——

長々と書いてごめんね。これから教会の祈祷会に行きます。こんなこと書くと「迷惑だ」って言われそうだけど、律子が一日も早くよくなるように、教会のみんなで祈ります。お大事に。美佐江。

(音楽)

(「道」みゆき)

<完>